

エンドウに発生する病害虫

2月の農作業

■ナモグリバエ

- 初期は葉に白い斑点が見られ、被害が進むと不規則な白い筋ができる。
- 幼苗期に被害を受けると生育が阻害される。
- 発生が多いときは、葉全体が白くなる。
- 成虫は体長2mm程度の黒褐色の小さいハエ。



ナモグリバエの食害



ナモグリバエ

【防除】

- アブラナ科野菜やマメ科雑草が飛来源となるため注意する。

作物	適用農薬	希釈倍数	使用時期	総使用回数
サヤエンドウ	アディオン乳剤	3,000倍	収穫前日まで	3回以内

■うどん粉病

- 開花期から収穫末期まで発生する。
- 初期は葉の表面に白粉を生じ、指でこすると落ちるが、のちに葉裏や莖にも発生しこすっても落ちにくくなる。
- 結莢後に草勢が衰えてくると病斑上に小黑粒を生じ、葉は黄化する。
- 初めは葉下や日陰の部分から発生し全面に広がる。
- 多肥のものや、莖葉の繁茂したものは注意をする。
- 日照不足、軟弱徒長、風通不良で発生しやすい。



うどんこ病

【防除】

- 高温乾燥状態で発生しやすく、収穫期になると急増するので注意する。
- 登録農薬は収穫形態によって異なるので注意する。
- 病斑が見られる場合は徹底した防除を行う。

作物	適用農薬	希釈倍数	使用時期	総使用回数
サヤエンドウ	トリフミン水和剤	3,000~5,000倍	収穫前日まで	5回以内

裏面はジャガイモに発生する病害虫を掲載しています。

農作業のページは取りはずして別に保存し活用してください。

No.346 令和2年2月15日発行

ジャガイモに発生する病害虫

2月の農作業

■テントウムシダマシ

- 葉の裏側から、やや太短い線を横に並べたような食害痕で、葉脈を残すため網目状となる。
- 発芽後や作物の幼い頃に被害にあうと生育が遅れ不良となる。
- 葉裏に鮮黄色の卵を産み付ける。
- 幼虫は体に分岐したとげを多数生じている。
- 山間部や雑木林に隣接した圃場での発生が多い。



テントウムシダマシ



テントウムシダマシ (幼虫)

【防除】

- ナス科植物を周辺に栽培している場合は注意する。
- 被害株は集中しているので、分散する前に防除を行う。

適用農薬	希釈倍数	使用時期	総使用回数
スミチオン乳剤	1,000倍	収穫3日前まで	6回以内

■そうか病

- 表面に大きさ不同で周辺部がやや盛り上がり、中央がややくぼみ淡褐色～灰褐色のかさぶた状の病斑。
- ケラの食害跡のような深く陥没した大型の病斑が形成される場合もある。
- 乾燥しやすく通気の良い圃場で発生しやすい。
- 6月中旬～7月上中旬の肥大初期に地温が高く、少雨乾燥であると発生しやすい。
- 石灰を多量に施した圃場や、アルカリ土壌で発生しやすい。



ケラ食害跡のような病斑

【防除】

- 連作を避け、過度の石灰施用を避ける。
- 肥大期の卷子対策として灌水を行う。